

**第3次三田市健康増進計画・第2次三田市自殺対策計画（案）
に対する意見募集の実施結果について**

1 実施概要及び結果

- (1) 実施期間 令和5年12月27日（水）～令和6年1月25日（木）
- (2) 募集周知 広報誌令和5年12月号、令和6年1月号及び市ホームページに掲載
- (3) 閲覧方法
 - ①市ホームページでの閲覧
 - ②公共施設での閲覧
市役所（1階:市民情報ひろば、4階:地域福祉課）、総合福祉保健センター（2階:健康増進課）、まちづくり協働センター、各市民センター8か所
- (4) 意見の提出方法
 - ①電子申請フォーム（ロゴフォーム）により意見を提出
 - ②意見書（任意の様式）に住所、氏名、電話番号等を記入し、郵送、ファクス、電子メール、窓口への持参のいずれかで提出
- (5) 意見件数
11件（4名）

2 意見の概要と市の考え方

- 【計画案を修正するもの】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3件
- 【計画案を修正しないが、計画推進の参考とするもの】・・・・・・ 8件

【計画案を修正するもの】 3件

No	頁	意見	市の考え方と対応
1	6	<p>世帯数について</p> <p>表現、グラフでは、それぞれ世帯数や割合%、家族数で表現されており、世帯数や家族数の概要が見え難い。もっと簡単に全体像を理解したい（私のみが見誤っているのであれば、ご容赦頂きたい）。例えば、単族世帯が R2 年で約 3700 世帯、約 25%。これから考えると、三田市は約 15000 世帯となるが、人口 11 万人から考えると世帯数は少なそうに思われる。</p> <p>また、市だけのデータであったり、</p>	<p>ご意見を踏まえ、6 ページを次のとおり修正いたします。</p> <p>全年齢層の一般世帯が対象となる「①世帯類型別割合の推移」と、65 歳以上に限定した「②高齢者単独世帯数の推移」の2つの項目に分け、それぞれにグラフとコメントを記載します。</p> <p>また、「②高齢者単独世帯数の推移」に一般世帯に占める割合の折れ線グラフを追加します。</p> <p>なお、計画の策定にあたっては、国・県をはじめ必要に応じて他市町のデータも参考にしながら考察を行っております</p>

		<p>県との比較、県国との比較であったりと、比較の対象が異なっており、考察が十分でない可能性がある。</p>	<p>が、計画に記載しているデータについては、紙面での見やすさやデータの量等を考慮して、三田市の状況を広域的に比較する場合は県との比較を基本としながら、項目によっては国との比較を表示していますので、ご理解をお願いいたします。</p>
2	7～9	<p>寿命等について</p> <p>出生率は県、国との比較であり差異は認識できるが、平均寿命の年代別推移は三田市民のみのデータであり、県、国との比較ができない。40年ほど前からの人口が増え、流入した市民の多くが高齢期に移っていると思われるので、年別の推移を考えると県、国と比較すると増加割合が大きいのではないかと思われる。グラフから、H30 ないし R 元年頃から、三田市の死亡率が県国に対し増加傾向にあるように思われる。この辺りについて、もう少し幅広く調査、考察をお願いしたい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、7ページを次のとおり修正いたします。</p> <p>「①平均寿命の推移」について、国・県の平均寿命を追記します。</p> <p>なお、死亡率については、一般的に高齢化の進展に伴って上昇傾向となります。本市の高齢化率は国・県の高齢化率を上回る勢いで増加を続けており、死亡率の上昇もこの影響を少なからず受けていると考えています。</p> <p>本計画の策定にあたっては、三大生活習慣病による死因が半数を占めることや生活習慣病により三田市国民健康保険の医療費が上昇傾向にあることから、生活習慣病予防・重症化予防の取り組みの強化の必要性など、死亡率に限らず幅広く考察を行っております。</p> <p>今後も様々な視点で考察し、必要な取り組みにつなげてまいります。</p>
3	—	<p>全般</p> <p>「…に努める」、「…予防する」、「…を実施する」等々、色々書かれているが、内容が総体的過ぎて、漠然としている。</p> <p>何をしようとしているのか、どの様に取り組もうとしているのかよく解らない。取り組む方向性をより明</p>	<p>本計画は、めざす姿「健康意識の向上・健康寿命の延伸」の実現のための基本計画として大きな方向性を示すものです。</p> <p>計画書の第3章では、基本理念のもと基本目標を定め計画の体系を示しています。次に第4章では計画の展開として「市民一人ひとりの取り組み」「地域・職場等での取り組み」「市の取り組み」として、どのような視点で各々の主体が取り組みを進めていくかについて記載しております。</p> <p>その上で、本計画に基づき事業を実施</p>

		<p>確に示して頂きたい。</p>	<p>する際には、最新の知見や市の実情に合わせて具体的な手法等を検討し、実施してまいりたいと考えております。</p> <p>なお、ご意見を踏まえ、市は率先して取り組みを進めていく立場にあることから、「市の取り組み」の記載については、「…に努めます」という表現を「…を行います」「…を図ります」等といった表現に修正します。</p>
--	--	-------------------	--

【計画案を修正しないが、計画推進の参考とするもの】 8件

No	頁	意見	市の考え方と対応
1	55	<p>生活習慣病予防・重症化予防について</p> <p>「めざす姿の実現に向けた市民一人ひとりの取り組み」について、20歳の学生で学校で簡単な健診もありますが、生活習慣病予防の話聞きません。</p> <p>年齢的にもまだ気をつけなくていいのか、生活習慣病予防や健康づくりはどのように情報収集をすればよいでしょうか。</p>	<p>青年期（18歳～39歳）は、進学や就職等、ライフステージにおいて生活環境や生活習慣が大きく変わるとともに、生活習慣病等の発症に大きく影響するライフスタイルが確立される時期でもあります。将来、生活習慣病にならないためにも、若いうちから健康に関する正しい情報を知り、自分自身の生活習慣を見直すことが大切です。</p> <p>本市では、20歳以上を対象とした女性がん検診や歯科口腔健診、健康づくり相談会、各種健康教室を実施し、こういった機会を通じて情報の提供などを行っており、市ホームページ等でもお知らせしておりますのでご覧ください。</p> <p>今後は、学生を対象とした健康教育の実施やSNSを活用した情報発信等にも積極的に取り組んでまいりますので、ぜひご活用をお願いいたします。</p>
2	60	<p>ライフコースを踏まえた健康づくりと健康意識の向上について</p> <p>[ライフステージに合わせて、切れ目のない健康づくりに関する情報提供及び情報発信手段の工夫]と記載されていましたが、言葉だけでは</p>	<p>本計画では、新たにライフコース（個人がたどる生涯の道筋）を踏まえた健康づくりを推進してまいります。</p> <p>計画の推進のためには、市民の皆様が計画の取り組みを理解していただき、主体的に健康づくりに取り組んで</p>

		なく、市民へイラストなど、視覚的にイメージできるものを周知の一つとして検討されてはどうか。	<p>いただくことが何よりも重要と考えております。</p> <p>計画の推進にあたっては、ご意見にありますとおり、各ライフステージごとの取り組みについては視覚的にイメージできるものを使うなど、わかりやすくお知らせできるよう工夫してまいります。</p>
3	62	<p>栄養・食生活について</p> <p>「朝ごはんを食べている人の増加」について、18～29歳の現状値が最も低くなっています。私自身も大切さは分かりますが実行できていません。市は具体的にどのように取り組んでいかれるのでしょうか。</p>	<p>ご意見にありますとおり、18～29歳を中心とした若年層で、朝食摂取率や栄養バランスのとれた食生活を心がけている人の割合が低くなっており、この世代への取り組みが必要と考えます。</p> <p>本計画と整合を図る計画の一つである、第2次三田市食育推進計画（令和5年度～令和9年度）においても、若い世代の健全な食生活の確立に向けて重点的に取り組むこととしております。具体的には妊婦面談や乳幼児健診等の場を活用した子育て世代への啓発、高校生など次の若い世代に対して朝食の摂取を含めた健全な食生活に関する講座を開催する等啓発の機会を充実していきます。</p> <p>また、レシピ動画等デジタルツールを活用する等、情報発信の方法も工夫して推進してまいります。</p>
4	76	<p>自然に健康になれる環境づくりについて</p> <p>「居心地が良く歩きたくなる、まちなかの創出に向けた取り組み」とありますが、具体的にはどういった内容を考えているのですか。また、三田は農村部、市街地、ニュータウンのまちがあると思いますが、各地域の道路の段差解消など環境が整備され、市民が色々なところに足を運ぶようになり、健康の域を</p>	<p>社会環境は、健康へ様々な影響を及ぼすことが分かっています。</p> <p>本計画では、「自然に健康になれる環境づくり」を新たな取り組みとして追加し、自ら積極的に健康づくりに取り組む人だけでなく、健康に関心の低い人を含む市民全体に幅広くアプローチをしていくことを目指しています。</p> <p>「居心地が良く歩きたくなるまちなかの創出に向けての取り組み」として</p>

		<p>超えて人同士がつながるような、そういうまちどうしをつなげることも考えているのでしょうか。</p>	<p>は、自転車レーンの整備、道路の段差解消といった地域環境の整備、ウォーキングコースの活用等により進めてまいります。</p> <p>本計画では身近な環境や地域の資源等を活用して無理なく健康づくりに取り組むことを主眼としておりますが、各地域での健康づくりの取り組みが広がっていく中で、全市域で人の行き来が活発となり、賑わいのあるまちなかとなれば、健康面からも望ましい状態であり、ご意見をいただきました「まちどうしをつなげる」ということにもつながるものと考えます。</p>
5	80	<p>現状と課題について</p> <p>令和5年度までの第1次三田市自殺対策計画についての振り返りも記載するのが良いように思いましたがいかがでしょうか。たとえば、第1次三田市自殺対策計画がどのような目標で進めていたのか、達成したのか未達だったのか、未達だった場合の原因は何だと考えるのか、その対策は今回の第2次三田市自殺対策計画でどのように考えられているのか、があると具体的・かつ効果的な対策の立案につながるように思いました。</p>	<p>第1次三田市自殺対策計画の振り返りにつきましては、第2章の4「第2次計画の評価・検証」(P46、P47)及び第2章の5「課題の整理」(P51)において、現状・課題、今後の方向性及び現行計画の評価指標の達成状況等を掲載しておりますのでご参照ください。</p> <p>その概要としまして、現行計画では、国や県の目標と合わせ、自殺者数の減少、自殺死亡率の減少を目標としましたが、いずれも達成することができませんでした。未達の原因としては、目標の基準年(平成27～29年の平均値)は自殺者数が減少傾向にあったという状況にありましたが、核家族化などの家族形態の変化やライフスタイルの多様化などにより地域のネットワークが希薄になりつつある中で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人と人との接触が減少し、孤独・孤立の問題が顕在化してまいりましたので、こうしたことも自殺が増加した要因の一つと考えています。</p> <p>こうした状況も踏まえ、本計画では、新たな取り組みとして、多様な相談ニー</p>

			<p>ズに対応するため、SNSなど新たなコミュニケーションツールを活用した相談支援を拡充するなど、相談者が必要なときに効果的な対応ができるよう、仕組みの構築や情報発信を強化して、支援の充実につなげてまいります。本計画の“いのち”をつなげていくなど、自殺死亡率の減少に向けて、取り組みの充実を図ってまいります。</p>
6	88	<p>数値目標について</p> <p>三田市の主な自殺者の特徴（2017年度から2021年度の5年間）から、(P. 82 (PDF 85/115 枚目))</p> <p>自殺者の特徴上位5区分</p> <p>1位:男性 40～59歳有職同居 2位:男性 20～39歳無職同居 3位:男性 20～39歳有職同居 4位:女性 20～39歳有職同居 5位:男性 60歳以上無職同居</p> <p>の自殺者数も数値目標に入れる方が良い（効果を測りやすく、かつ振り返りを行い次の活動につなげやすい）と思いましたがいかがでしょうか。</p> <p>本市の重点対策が、「勤務・経営」、「子ども・若者」、「無職者・失業者」、「生活困窮者」ということですが、その分類ごとの自殺者数を数値目標に入れることも考えましたが、具体的・かつ効果的な対策の立案も、また結果の確認も難しいように思い、自殺者の特徴上位5区分の切り口が良いように思いました。</p>	<p>三田市の特徴から数値目標を設定することは、評価・振り返りをするためにも大事なことであると考えます。</p> <p>しかしながら、ご提案いただきました、自殺者の特徴区分（性別、年代、有職・無職等）に応じた数値目標の設定につきましても、自殺に至った要因等の情報を把握することは出来ないため、対策の立案・効果の確認も困難であることから実施は難しいと考えます。</p> <p>こうした中、本計画では、全体を通して、ライフステージに応じて、子ども期、青壮年期、高齢期に区分し、それぞれ「市民一人ひとりの取り組み」、「地域・職場等での取り組み」、「市の取り組み」を掲げ、「～誰も自殺に追い込まれることのないまち さんだの実現～」を目指してまいります。</p> <p>とりわけ、本市は全国と比較して、過去5年のデータから、20～39歳の若い世代の自殺死亡率が高いという状況を踏まえ、その対策の一つとして、新たなコミュニケーションツールなどを活用した相談支援を拡充し、ひきこもりや子育ての悩みなど相談者のニーズに応じて効果的な対応ができる仕組みの構築や情報発信を行ってまいります。</p> <p>その上で、本計画の数値目標について</p>

			<p>は、国や県の状況と比較が容易な10万人あたりの死亡者数である「自殺死亡率の減少」とし、国の目標と同じく基準年と比較して30%以上の減少を目指してまいりますとともに、自殺者の特徴区分に応じた数値目標を掲げることはいたしません。推移について注意深く観察を続けてまいりますのでご理解をお願いします。</p>
7	89	<p>「生きる支援」に関連する重点施策一覧について</p> <p>本市の重点対策である、「勤務・経営」、「子ども・若者」、「無職者・失業者」、「生活困窮者」の切り口だけでなく、三田市の主な自殺者の特徴（2017年度から2021年度の5年間）から、(P. 82 (PDF 85/115 枚目))</p> <p>自殺者の特徴上位5区分</p> <p>1位:男性 40～59歳有職同居 2位:男性 20～39歳無職同居 3位:男性 20～39歳有職同居 4位:女性 20～39歳有職同居 5位:男性 60歳以上無職同居</p> <p>への重点施策がある方が良い(効果を測りやすく、かつ振り返りを行い次の活動につなげやすい)ように思いましたがいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見をいただきました三田市の主な自殺者の特徴上位5区分に重点施策を掲げることにつきましては、大切な視点であると考えますが、現状として、自殺に至った要因等の情報を把握することが出来ないため、個々の要因分析を行い、重点施策を設定することは困難であると考えています。</p> <p>一方で、20～39歳の年齢層は、ひきこもりや家族間の不和、孤立、子育ての悩みなどが自殺の背景として考えられるなど、各区分ごとの主な背景や傾向をつかみながら、それらの要因を取り除き、「生きる支援」に関連する重点施策につながるよう取り組みを進めたいと考えています。また、新たに「いのち」を支える人材の育成と共に生きる居場所の創出《新規》を取り組みの1つに加えるなど、自殺者の特徴区分だけでなく全ての世代に必要な支援を届けることが出来るよう取り組みを行います。</p> <p>さらには、全国と比較して、20～39歳の若い世代の自殺実態を踏まえ、早い段階からの自殺対策が重要と捉え、「子ども・若者のSOSの出し方・受け止め方の習得に向けた取り組み《新規》を進めるなど、三田市の特徴への施策を意識して取り組んでいきたいと考えています。</p>

8	89	<p>「生きる支援」に関連する重点施策一覧について</p> <p>《自殺の危機経路図》(P. 81 (PDF 84/115 枚目))の各要因との対応づけについても記載する方が良いでしょう。そうすることで、施策に抜け漏れがないかや、平均4つに対する偏りなどを確認し、具体的・かつ効果的な対策を立案しやすくなるように思いました。</p>	<p>ご意見のとおり「生きる支援」に関する重点施策について、自殺の危機経路における要因と支援を関連づけることは、漏れのない施策や支援の確認につながるものと考えますが、一方で、自殺に至る要因は様々であり、要因等の情報を把握することが出来ないことから、要因と支援を関連づけて施策の抜け漏れなどを確認していくことは難しいのが実情です。</p> <p>本計画においては、行政や地域包括支援センターなど、様々な関係機関で構成する重層的支援会議を活用し、多機関協働によって自殺の原因となる複雑、複合化した問題の解決・支援に取り組むこととしています。</p> <p>また、自殺対策の推進体制である「市自殺対策庁内連絡会議」で個々の支援や課題についての情報連携や意見交換により、施策等にフィードバックさせ、今後の重点施策への反映に取り組んでまいりますのでご理解をお願いいたします。</p>
---	----	---	--